フォーラム

特定非営利活動法人 奈良 21 世紀フォーラム会報

2024年 新春号 No.40

ニュース

◇ 2023 年実施の主な事業

6月10日 春日大社奉納蹴鞠の実施

6月17日 令和5年度理事会・通常総会開催

9月30日 春日大社奉納蹴鞠の実施

10月28日 ~29日 第14回大仏書道大会の開催

11月 3日 源流まつり in 和歌山「しらすまつり」に参加

12月 9日 奈良の歴史文化資源の探訪の実施 「奈良時代にタイムスリップ! 平城宮を今に感じる」







年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は多大なご理解とご協力を賜り、心より感謝 申し上げます。

本年1月1日夕刻に令和6年能登半島地震のニュースが飛び込み、衝撃的な新年を迎えることになりました。亡くなられた方に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被害に遭われたすべての方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

2020年から続いたコロナ禍は一段落しましたが、国際情勢がますます厳しさを増し、物価の高騰や政治不信、人手不足など我々を取り巻く環境は依然



理事長 植野康夫

先行き不透明な状況にある中で、当フォーラムにおきましては、2000年(平成12年)の設立から本年で設立24周年を迎えることができました。

設立以来取り組んできた「万葉蹴鞠の復元」、「書の文化の伝承」、「県内の歴史文化資源の探訪」、「県内企業の企業文化・企業風土の調査と紹介」、「吉野川源流の水源地の森を守る活動支援」などの事業につきましては、各関係先のご理解とご協力のもと、昨年は6月と9月に「春日大社奉納蹴鞠」、10月に「第14回大仏書道大会」、12月に「奈良の歴史文化資源の探訪」などを無事実施することができました。これもひとえに会員ならびにこれら活動にご協力くださった皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後の活動につきましては、様々な変化を注意深く見極め柔軟な対応をしながら、 意義ある事業を展開・推進し、奈良から明るい情報発信ができるよう積極的に取り 組んでまいります。また、引き続き会員の増強や財政基盤の充実にも努めてまいり ますので、会員皆様の変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

本年が会員皆様にとりまして辰年にふさわしい健康で輝かしい飛躍の年になりま すよう、心からお祈り申し上げます。

(2024年1月吉日)

令和5年度理事会・通常総会開催

活動実施の方針・事業計画を決定

○令和5年度通常総会の開催

令和5年度の通常総会は、6月17日(土)に奈良ロイヤルホテルにおいて開催しました。 総会では、令和4年度の事業報告と決算の承認、令和5年度の活動実施方針、事業計画および 予算を決定しました。また、一部理事の変更があり、新たに千原昌和氏が理事に就任され、高 松啓二氏が退任されました。尚、同日開催されました理事会において、植野康夫氏が理事長、 谷口宗男氏が副理事長に、加古哲理氏が専務理事に重任されました。特別顧問には森本公誠氏、 堀井良殷氏の両氏が引き続き就任されました。

◇活動実施の方針

奈良県の歴史文化とそれを取り巻く自然環境の魅力を再発見し、奈良県の活性化に結びつく提案活動を行う。まず伝統的芸能文化として定着しつつある「万葉蹴鞠」の紹介に努める。また奈良県内の伝統行事の紹介のほか、奈良県の観光立県としての持続的な観光振興のための取り組みに積極的に協力する。そのほか、奈良県に根をおろし、発展し続ける企業の伝統、文化、経営理念と、奈良の風土と



のかかわりを調査、記録し、県内で活躍する企業を県内外に紹介する。まちづくり等を支援する企画事業の提言・提案に関する事業として、川上村で実施される「源流まつり」等に協力する。

◇令和5年度の事業計画

①「万葉蹴鞠」の復元

県内における伝統的芸能文化として発掘した「万葉蹴鞠」の実演を通して、県民に伝統的芸能文化を啓蒙すると同時に、当県への観光誘致の基礎資源として活用する提案を行う。

②「書の文化」の伝承

県内の地場産業、地域文化を見直し、観光資源として地域活性化に結びつける活動を行う。 東大寺の協力を得て大仏書道大会を開催する。全国から作品を募集し、入選作品を大仏殿 西回廊において展示。また、大仏殿西回廊において席書会を開催する。

③「奈良県内の歴史文化資源」の探訪

日本人の心の原点をさぐる活動として、奈良県内の神社仏閣をはじめとする文化資源を顕

彰し、新たな視点で紹介する。合せて食文化を発掘し、観光資源として地域活性化に結び つける提案活動を行う。

- ④「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介 奈良の風土に育まれ成長するユニークな企業を対象に、製造・製作・展示等の現場や様々 な形で社会貢献に励む企業のリアルな姿に触れる機会として企業見学会を実施する。
- ⑤「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援 源流の村・川上村で実施される源流まつり等の行事に積極的に参加する。森と水の源流館 と連携し、川上村の自然、歴史文化を体験するバスツアーの実施を行う。

2023年1月から12月に実施した事業

1. 万葉蹴鞠の保存

◎春日大社奉納蹴鞠の実施

実施日 令和5年6月10日(土)・9月30日(土) 会 場 春日大社林檎の庭

6月10日、9月30日のいずれも10時30分から、春日大社奉納蹴鞠行事として、万葉蹴鞠の奉納を「林檎の庭」で開催しました。コロナ禍や天候不良などにより、2020年の秋から実施できておりませんでしたので、久しぶりの奉納となりました。

「林檎の庭」で玉串奉奠など正式参拝した後、古代衣装に身を包んだフリースタイルフットボーラー(6月は入交健太さん、9月は原拓人さん)が蹴鞠を奉納しました。その後、元塚敏彦氏に蹴鞠の解説をいただく中、当フォーラムの万葉蹴鞠チームの鞠足・池田章さん、高丸久範さんも参加し、3人での蹴鞠披露が行われました。厳かな雰囲気に包まれながら披露する鞠足の見事な鞠さばきに、参拝者の方々から大きな拍手と歓声が上がりました。



6月には林檎の庭での奉納後、春日若宮でも奉納しました



9月の林檎の庭での奉納

2. 書の文化の伝承

◎第14回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催 実施日 令和5年10月28日(土)~29日(日) 会 場 東大寺大仏殿西回廊

10月28日(土)から29日(日)の2日間、東大寺大仏殿西回廊に於いて「第14回大仏書道大会」の書道展を開催しました。

当書道展は、平城遷都1300年を記念して始まって以来毎年開催しており、今年で第14回目を迎えました。単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さな



審査会(朝日新聞社奈良総局)

ども加味し、書の可能性を感じさせるような作品に光をあてる稀有な大会として、全国から毎年多数の応募をいただいています。少子化に伴う生徒数の減少や、パソコン・スマートホンの影響による書道離れなど、作品の減少が案じられましたが、関係する多くの方々のご協力もあり、全国65の高校・大学から1,394点の応募を頂くことができ、ほぼ前年並みの作品数となりました。

同書道展にさきがけ、10月9日には朝日

新聞社奈良総局において森本公誠・東大寺長老(当フォーラム理事・特別顧問)を審査委員長に迎え、高校や大学の書道教員の方々に審査に携わっていただき、7点の特別賞と93点の入賞作品を選定しました。

筆で書く楽しさが伝わってくる作品、若者らしい意欲的で力強い作品など個性を発揮した作品が数多く見られ、外国からの留学生の作品にもたいへん優秀な作品が見受けられました。また、優れた作品を多数応募された団体に贈られる奨励賞には、滋賀県立堅田高等学校、東大寺

学園高等学校の2校が選ばれました。今年も 受賞作品100点を大仏殿西回廊に展示し、 入選者や学校関係者をはじめ参拝客や観光客 の方にも観覧していただき、700名余りの 来場を得ました。29日には席書会を開催し、 東大寺・森本長老のお話しを伺った後、写経 と自由題で作品を揮毫。作品は大仏様に奉納 しました。

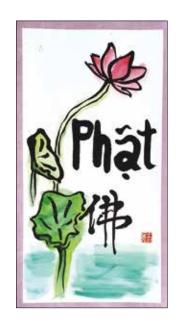


展覧会 (大仏殿西回廊)

☆特別賞7点の紹介

奈良県知事賞「Phật- 佛」 土川 之元さん (東大寺学園高等学校)

大仏さんは巨大なハスの花弁にお座りになっていらっしゃいます。作者は世界が仏教によって平和な繋がりが保てるようにと願いを込めて母国ベトナムの国花として親しみの深いハスの花を描き、ベトナム語と漢字で「仏」と書きました。ハスはスイレンと異なり水面から長く花茎を伸ばし花を咲かせます。作者のハスの花も作者の想いが届けとばかりに高く伸びています。



奈良県教育長賞「古事記」

髙田 萌恵さん(兵庫県立伊川谷北高等学校)

今年、東大寺では初代別当「良弁僧正」没後1250年の法要が営まれ話題になっていましたね。日本最古の歴史書『古事記』を編纂した「太安万侶」は今年没後1300年という節目にあたり、実にタイムリーな作品です。

「臣安萬侶言… (臣安万侶が申し上げます…)」と始まる 『古事記』上巻冒頭からの一節をやわらかい羊毛筆を用い 得意の隷書体で堂々と書いています。





奈良市長賞「かえるの歌」 伊藤 空未さん (新潟県立新潟向陽高等学校)

ほのぼのとした世界が描かれ、春の床の間に飾りたくなるような一幅です。蛙は親子でしょうか。大小があっていいですね。後ろ姿の向こうにも仲間がいるようです。書は確かに歌っているような書きぶりです。蛙が大好きな作者が蛙と一

緒になって楽しんで書いたことが充分に伝わり、好感の持てる作品となりました。

奈良市教育長賞「亀」

長井 小雪さん (滋賀県立堅田高等学校)

猿沢池にいる亀ではなかったのでしょうか…。大胆な筆使いで紙面いっぱいに筆を走らせました。筆先をバラけさせ、その筆をうまく用いて渇筆のきいた墨の「黒」と「飛台」の対比が美しく出現し、絵画的な効果が生まれました。特に上部中央に残った小さな四つの空間や最終画は絶妙です。印の位置もここで決まりですね。



東大寺賞「道標」

Yoanna Dokova さん (奈良教育大学大学院)

周りの花模様も手書きとあり、どれほどの時を費やし書かれたものかと驚くばかりです。一文字一文字はハスの花弁に乗っており、実に端正です。さらにその所々に思いを綴った現代文が出現するとは…。これ程独創的で祈りや願



いのこもった写経がこれまでにあったでしょうか。平仮名、漢字、出品票の文字にも高い書写能力が発揮 され、海外からの留学生とは思えないすばらしい出来ばえです。

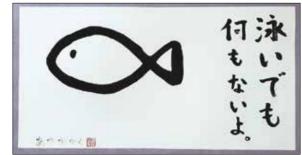


朝日新聞社賞「フンコロガシになりたい」 吉原 雄太さん(東大寺学園高等学校)

「大仏さん」や「鹿」はよく描かれるモチーフですが、初めて「フンコロガシ」が登場しました。立体感のある描写です。奈良公園の芝は野生の鹿の旺盛な採食が天然の芝刈機の役目。この鹿の大量に排泄される糞の分解に寄与しているのが糞虫です。奈良公園には日本に分布する糞虫のおよそ半数が生息しているそうです。この驚異の生態系の中に身をゆだね、生き方を知るとはすばらしい。

奈良 21 世紀フォーラム理事長賞「メダカの努力の価値」 鹿倉 彩花さん (大阪府立北野高等学校)

シンプルに描かれた魚は作者が飼っている「めだか」だ そうです。少し太った「めだか」ですね。生活の一コマを 切り取った絵と俳句より短い言葉は日常の真実を語ってい ます。名前の位置は縦書きの本文に対して紙面左縦に書く のが一般的ですが、この指導が及ばなかったことが効を奏 し、この魚は左前方へ泳いで行くことができます。水槽の 広がりまでも表現されました。



3. 奈良の歴史文化資源の探訪

○奈良時代にタイムスリップ!平城宮を今に感じる 実施日 2023年12月9日(土)参加者 7名 12月とはいえ、小春日和のような暖かな日だった。予定どおり、午前10時に大和西大寺駅を平城宮跡に向けて出発。約10分で到着した。先ずは、宮跡入口に立てられた、宮跡案内板を基に、平城京とその北中央に位置する平城宮について大まかな説明が中田講師からあった。続いて、なぜ、この地が都に選ばれたか、を『続日本紀』に記されている和銅元年に発せられた認の内容が紹介された。

「平城の地は、四方を守護する青龍・白虎・朱雀・玄武の四神獣や、陰陽の図緯に叶い、東を春日・北を平城・西を生駒の三山が鎮めている。これは龍下・筮占の意に従っているので、ここに都と街を建てることにした。」という古代中国の陰陽五行思想による都づくりの理念に即したまたとない土地であることを強調している。と

そして、奈良時代は、8代3人の女帝(孝謙、称徳重祚)の時代であったこと。また、「平城遷都は元明女帝によってなされたが、私情によるものではなく、その卓越した政治手腕と頭脳で、己が大宝律令撰定の立役者である藤原不比等の私情は大いに働いていたのではないか」等々。さらに、「不比等は巧みな手法を活用して、朝廷での地位を確立し、のちに不比等の娘光明子は皇族以外からはじめて皇后に立てられた」ことなどの興味深い話に熱心に耳を傾けた。

そして「平城宮跡資料館」へ。ここは、奈良文化財研究所が70余年にわたり調査、研究してきた成果を展示。参加者は木簡などの出土品に書かれている内容に、また天皇の生活の一端をかいま見る衣食住にも興味津々の様子だった。

外に出ると雲ひとつない青空が広がっていた。梅林横を通り過ぎ、2年前の春に完成した第一次大極殿の正門大極殿門を通り抜け、目指すはひときわ大きな二層屋根の第一次大極殿内部へ。この建物は平城遷都1300年を迎えるにあたり復元され、基壇を含めた高さはなんと約29メートル、使われた屋根瓦は10万枚とか。

ここは、天皇の即位や元旦の式典などに使われる平城宮の中心的な建物。中央には天皇が儀式の時に座す「高御座」が据えられ、壁面には四神が描かれている。

日本画家の上村淳之氏が制作したものだが、みんなが注目したのは東を護る青龍。「あれっ、 これって龍?犬みたいやね」の声が口々に。「平成の日本人の感覚で作った。全く私の想像の

四神である」との上村氏の言葉だが、それは一見、手足が長く尻尾も長く、スラリとした体つきの狩猟犬種のグレイハウンドを 思わせるような・・・。

そういえば高松塚古墳の壁画の龍もこれ に近かったか?と、思いめぐらせてみた。

いずれにしても龍は、誰も見たことのない想像上の動物。私たちが現在目にする眼光の鋭い、力強い龍が、龍の姿だと思い込んでいるから、上村氏の描いた龍に違和感が



遺構展示館

あったのかもしれない。

一通り殿内を見終わり、中央デッキに出て、儀式のとき、天皇が南面して見たであろう当時 の情景に思いを馳せることができた。

殿内を出て東方向へと歩き、遺構展示館 横の広場で各自持参したお弁当を摂ること に。行程の後半は遺構展示館を見学後、宮 内省遺跡(推定)や、天皇の私的な住まい であった内裏跡に立ち寄り、第二次大極殿 の基壇に立った。ここは奈良時代後期の 大極殿の跡で、復元した基壇の上からは 360度の景観が見渡せ、中田講師おすす めの宮跡の一番のビューポイントだとか。



第二次大極殿基壇

ここでは、先に配られた皇室系図を手元に、聖武天皇時代の世情に加え、聖武天皇後の皇位 継承の話があった。

「聖武天皇には藤原不比等の娘光明子との間に基王と安倍内親王がいた。一方、県犬養広刀自との間に安積親王がいた。こちらは聖武天皇の第2皇子、同い年の皇太子であった基王が死去したため、聖武天皇唯一の皇子であり、皇太子の最も有力な候補となった。しかし、天平10年1月13日に光明皇后を母に持つ安倍内親王が立太子される。女性が皇太子になることなど前代未聞のことである」。内親王を皇太子にするべく、光明皇后の画策、とった行動など・・・、興味深い話が続いた。

最後は復元された平城宮の正門朱雀門へ。ここでは外国使節の送迎などの儀式なども行われ、この正門から入ることができるのは、現在なら市長ぐらいか、との話も。そしていよいよ復元された遣唐使船の船上へ。

「遣唐使船はその名のとおり遣唐使(7世紀前半から9世紀前半まで、日本の朝廷から唐王朝へ派遣された外交使節)一行が渡海、帰航に乗った船。犬上御田鍬らの派遣が最初で、以降894年(寛平6年)に大使に任命された菅原道長が廃止するまで約20回任命されたが、実際に渡唐したのは16回であった。大学に入る留学生には阿倍仲麻呂や、外交機関で学ぶ吉備真備、寺院に入る空海など目指すものは様々であった」。

全長約30メートルの船体に網代帆を張る2本の帆柱を持つ構造船に150人前後が乗船できたと推定されているが、「重たそうな網代の上げ下げは大変だったろうな」、「この船上で150人がどのような体勢でいたのだろうか」、「トイレは・・・」等々・・・、興味は尽きない様で、参加者は想像たくましく、口々に話し合っていた。

今回、7名と少ない参加者であったが、山口県から歴史好きなご夫婦の参加もあり、刺激的で和やかな雰囲気に包まれた平城宮跡探訪となった。(N.N記)

4. 「吉野川源流の水源地の森を守る活動 | 支援

◎「吉野川・紀の川源流まつり」in しらす祭りに参加

11月3日(祝)、「吉野川・紀の川源流まつり」が和歌山県和歌浦港で開催され、当フォーラムから加古事務局長が参加しました。

川や水の恵みでつながる吉野川・紀の川流域の市町村が協力し、地元の物産の販売などを通じて豊かな川、海のPRに努めておられました。奈良県からは川上村、東吉野村、黒滝村なども参加され、特に川上村のブースでは、パネル・ポスターの掲示や資料の配布などを通じて、源流の村として水源地の森を守る取組について紹介されていました。

当フォーラムは、今後も川上村並びに森と水の源流館との連携を深め、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」の支援を続けてまいります。











札幌コンベンションセンターにて 万葉蹴鞠を解説する福嶋氏

追悼・福嶋重博氏

2023年11月20日、福嶋重博氏が永眠されました。

奈良21世紀フォーラムの発足から2022年6月に退任されるまで監事としてご尽力賜り、また、企画委員として万葉蹴鞠の復元事業にも携わっていただきました。

その多大な貢献に改めて感謝申し上げますとともに、在りし 日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

役員名簿

(2024年1月1日現在)

職名	氏 名	職業(経歴)
理事長	植野 康夫	元(株)南都銀行 特別顧問
副理事長	谷口 宗男	奈良交通(株) 相談役
特別顧問・理事	森本 公誠	東大寺長老
特別顧問・理事	堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会 顧問
理事	上野 誠	國學院大學 教授
理事	卜部 能尚	ウラベ木材工業 代表
理事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 相談役
理事	花山院弘匡	春日大社宮司
理事	榧木 康雄	新日本料理材料研究会 主宰者
理事	菊池 攻	奈良トヨタ(株) 取締役社長
理事	久保 昌城	竹茗堂 左文 代表
理事	桑原 克仁	近鉄ケーブルネットワーク(株) 取締役社長
理事	小山 新造	小山(株) 取締役会長
理事	澤田 啓二	元東大寺学園中・高等学校教諭
理事	高田 知彦	奈良中央信用金庫 理事長
理事	千原 昌和	(株)近鉄百貨店 代表取締役専務執行役員
理事	中井 隆男	大和ガス(株) 相談役
理事	中田 紀子	エッセイスト
理事	西川 惠造	(一財) 南都経済研究所 理事長
理事	林 信	近鉄グループホールディングス㈱ 取締役常務執行役員
理事	森本 俊一	三和澱粉工業㈱ 取締役会長
理事	米田 昭正	KNT-CTホールディングス(株) 取締役社長
専務理事 (事務局長)	加古 哲理	奈良交通㈱総務人事部嘱託アドバイザー
監事	津山 恭之	東大寺総合文化センター 総長代理
監事	中嶌 大	中嶌大会計事務所 所長

(50 音順)

2024年1月発行

編 集 加古哲理

発 行 NPO法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒 630-8115 奈良市大宮町 1 丁目 1 番 25 号 奈良交通本社ビル 1F